

能登半島地震・豪雨災害への取り組みについて ～ 企業市民活動を中心として～

パナソニック オペレーショナルエクセレンス株式会社 企業市民活動推進部



基本の
考え方

～事業を通じて人々の暮らしの向上と社会の発展に貢献する～
社会の公器、お客様第一、衆知を集める、日に新た



1929年、創業者が制定。
あらゆる経営活動の根幹をなす



創業者 : 松下幸之助

事業活動を通じて、人々のくらしの向上と社会の発展に貢献することを目指すとともに、
企業市民活動においても社会課題解決、さらに新たな社会価値の創造に取り組む

パナソニックグループが目指す姿

物と心が共に豊かな理想の社会の実現

事業活動

商品・サービス・ソリューションの提供による社会貢献

ブランドスローガン

幸せの、チカラに。

企業市民活動

中長期視点で事業とは異なる方法で社会貢献

(1) 寄付

●パナソニックグループとして 5,500万円を寄付

《寄付先》 日本赤十字社
 社会福祉法人 中央共同募金会
 災害ボランティア活動支援プロジェクト会議（支援P）
 認定NPO法人 ピースウィンズ・ジャパン

●石川県に乾電池、球ランタン等を寄贈



8月に従業員寄付の目録を贈呈

(2) 従業員参画の取り組み

活動内容	協働・連携先／支援先	実績
①災害ボランティア活動：【春】ボランティアセンター運営サポート	内閣府、経団連、支援P	15名が参加
②災害ボランティア活動：【秋】現場実践活動	支援P	15名が参加
③うるうるパック袋詰め活動への参加（文房具の寄贈も）	支援P、経団連が主催する取り組みに参加	11名が参加
④カフェテリアポイントを活用した寄付	認定NPO法人 ジャパンハート	2,745名が寄付
⑤能登の状況を知る「社会課題講演会」の開催	認定NPO法人 ジャパンハート	160名が視聴
⑥被災地で活用いただく雑巾製作・寄贈	認定NPO法人 ADRA Japan	約100枚を寄贈
⑦買って応援「生きもの元気米」の紹介	NPO法人 河北潟湖沼研究所	展開中

①災害ボランティアセンターの運営支援（2024年4月25日～4月29日）

- 従業員15名が石川県珠洲市・七尾市の現地活動に参加
- 当社グループとして初となるプロボノ的な「災害ボランティアセンターの運営支援」を実施
- 実施にあたっては、4月中旬から内閣府、経団連、支援Pと連日にわたる打ち合わせ、連携のもとに実現

【現地での業務内容】

- ・被災者のニーズヒアリング/対応日時の調整
- ・ボランティア活動参加者とのマッチング、ボランティアの受付
- ・車両や資材の貸し出し管理
- ・廃棄物処理場での受け入れ確認

《ボランティア参加者の声》

- ・**ボランティアセンターの運営方法**について数多く学ぶことができた
- ・社協スタッフの方の**コミュニケーション能力の高さに感心した**
- ・自らの能力や体力を必要とされる方々のために役立てているという**達成感が感じられた**
- ・**被災者の方の生の声**を聴くことができた
- ・ボランティアや被災者の方から**「ありがとう」と声をかけていただいた**
- ・会社のビブスを着て活動したので**「パナソニックさん」と声をかけられて距離が近づいた**



②現場実践活動（2024年10月11日～10月14日）

- 9月下旬の豪雨発生後、ボランティアが不足しているとの連絡を受け、3連休を活用して現場実践活動を企画
- 「災害ボランティア育成講座」受講者を中心に参加を呼びかけ、従業員15名が石川県珠洲市の復旧支援に参加
- 3泊4日の行程で丸2日間のボランティア活動を実施。床上浸水の被害を受けたお宅4軒を担当

【10月12日活動実績】 床下の泥の掻き出しに従事



【10月13日活動実績】 床下の泥の掻き出し、廃棄物運び出し等に従事



10月の現場実践活動について
社内報で報告したところ

イネが300名以上
社内のSNSで **29,000名以上が閲覧**

10月の1か月間で、
カフェテリアポイントの**寄付者が455名に**



(累計2,745名)

認定NPO法人 ジャパンハートを通じて、仮設住宅などの保健衛生管理、要介護者の看護を行う福祉避難所の運営サポート、物資の提供などに活用

ボランティア参加者が主体的に
活動報告書を作成し
職場懇談会を開催するなど



被災地の現状やボランティア活動の報告、自身の想いを積極的に周りの従業員に共有

活動報告書を**経営幹部に報告**

→経営幹部から事業場全員へ展開し、共感の輪が拡大

ボランティア参加者を核に
自主的なコミュニティが発足

各人が継続的に能登半島への支援をしており、自身の活動や現地の状況を共有しあい、取り組みに共感しあうコミュニティ活動に発展



■ 平時から顔の見える関係性を構築しておくことが重要

2001年度 NPOの組織基盤強化を支援

2012年度 従業員のスキルを活かした「プロボノ」で、復興支援・災害支援に取り組むNPOを支援

2019年度 「災害ボランティア育成講座」開始（2019年度～約2,000名参加、動画視聴約4,000名）

頻発する自然災害を受け、災害発生時にボランティアとして自主的に活躍できる人材を各拠点・地域に育成する目的で開始

初級編

災害ボランティアの知識・心構えを身につける約2時間の講座

中級編

より災害現場の状況に即した、実践につながる2つのコース

- ①災害ボランティアセンター運営サポートコース
- ②現場実践コース



《協働先》 ・ 災害ボランティア活動支援プロジェクト会議（支援P）事務局：中央共同募金会

《講師》 ・ NPO法人 いがた災害ボランティアネットワーク ・ 認定NPO法人 日本NPOセンター
・ 一般社団法人 BIG UP石巻 ・ ウェザーハート災害福祉事務所 ・ 全日本仏教青年会 ・ 株式会社 野村防災
・ NPO高知市民会議 ・ 社会福祉法人 榛東村社会福祉協議会 ・ 社会福祉法人 倉敷市社会福祉協議会

2023年度 福岡県久留米市での「現場実践活動」

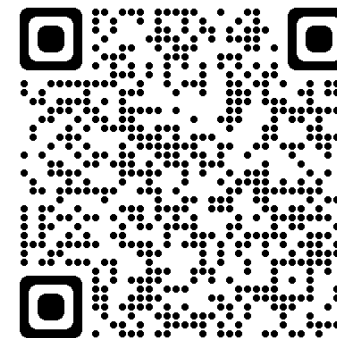
2024年度 能登半島地震・豪雨災害の「災害ボランティア運営サポート」「現場実践活動」

パナソニックグループ 企業市民活動サイト

パナソニックホールディングス（株）サイト > サステナビリティ > 企業市民活動



企業市民活動サイト



<https://holdings.panasonic.jp/corporate/sustainability/citizenship.html>